

支援センターみらい
平成 28 年度前期事業報告

就労移行支援事業所ふつーるでは、4月に6名でスタートし、9月末日時点で7名の方が利用されています。前期での就労実績は0件です。しかし、今年度で事業を終了するため、利用者の進路については一般就労、福祉就労、他の就労移行支援事業所への移行など幅広く検討し、利用者の意思を尊重しながら進路先の確保に努めています。また、事業の終了に伴い開設時に利用した助成金事業の精算を行っており、支援センターの建物の改築等で使用したのものについては、処分制限期間が38年と長期に亘っているため、相当額の返金を要するものと思われま

す。栗ヶ丘ホームにおいては、長期に亘り職員の欠員が続いており、センターをはじめ各事業の職員の協力を得ながら運営しております。そのため、人材育成まで手が回っていないのが現状です。中長期計画における大型グループホームについては、ハウスメーカーの建て貸し方式を利用し、定員10名（女性6名、男性4名）のホームを平成29年4月開業予定で取り組んでおります。また、予定していた桜塚ホーム1の移転については、予定通り9月に移転を行ないました。しかし、消防において新設と判断されたため、パッケージ型スプリンクラーの設置を余儀なくされましたが、行政としては新設との判断がなされなかったため、助成金の対象にならず、結果的に法人とご利用者の双方で負担をすることになりました。今後は、平成30年度末までにスプリンクラーの設置を求められているホームが4ヶ所あるため、消防や行政に対し設置緩和を求めていきたいと考えています。

相談支援事業においては、豊中市より委託相談支援事業を受託していることにより、自立支援協議会等への会議参加や一般相談への対応に時間を要することなどが要因となり、計画相談におけるサービス等利用計画作成やモニタリングが遅れるなどの影響が出ています。一般相談では、虐待や生活保護、住宅に関する案件など、相談内容が多岐に亘るため、各方面と連携をしながら対応するとともに、研修参加などによるスキルの向上を図っています。また、今年度より、週末における相談や面談などの対応のため、ヘルパー事業と合同で日曜を勤務日としていますが、主にあしすとの対応が中心となり、相談業務を行なうことは難しい状況となっています。

ヘルパーステーションあしすとにおいては、相談支援と同様に今年度より日曜日を勤務日とし、ヘルパーのバックアップ体制を強化しました。さらに、ヘルパー連絡会（年3回）やヘルパー情報交換会（毎月1回）を開催し、ヘルパーのスキルアップを図っています。しかし、日時の調整が難しく参加者が少ないため、日時の調整をはじめ、内容を充実させ、参加者を増やしていきたいと考えています。